

港町に、生きもののゆたかなススキ大草原を！

東お多福山草原とは？

みなさん、東お多福山をご存じですか？東お多福山は、神戸市と芦屋市の市境に六甲山地の頂の一つで、山頂付近には草原が広がっています。この草原は1948年頃には82.9haの面積で広がっており、様々な草原生植物の生育が確認されていました。しかし、管理が停止したことにより森林化が進み、またゴルフ場建設や植林などの開発行為も重なって現在では9.2haまで縮小しています。また草原の大半を占めていたススキや数多くの草原生植物は、生育力旺盛なネザサに押されて、2007年頃にはまばらに見られるのみとなっていました。

草原保全活動がはじまった！

このような状況を改善し、かつての草原生植物豊かなススキ草原に再生しようと、平成19年秋に、ブナを植える会のかけ声によって集まった5団体が東お多福山草原の管理を再開することになりました。このとき、ひとはくにも協力量請があり、私はススキ草原の相観と草原生植



写真1
東お多福山の草原中核部で年1回の頻度で地上部全面刈りを実施

物の多様性の回復に適した管理方法を提案するとともに、その効果を科学的に検証して改善を図るためのモニタリング調査の役割を担うこととなりました。また参加団体の意見を調整するコーディネーター役も担うことになりました。現在では、これらに加え、東お多福山のかつての姿を明らかにするなどその魅力を発掘する研究や、それらを多くの方に知ってもらうための普及啓発活動の提案を行っています。

ここまで進んだ保全・活用の取り組み

平成19年秋から始まった刈り取り管理。管理面積は順調に拡大しており、管理開始時には500㎡だったのが平成23年には8000㎡に拡大し、平成26年からは9000㎡を管理するようになりました（写真1）。活動回数も年3回だったのが平成27年には年5回に。1回の活動の参加人数も開始当初は20名程度だったのが現在では60名となり（写真2）、研究会への参加団体も5団体だったのが10団体にまで増え、活動の輪が広がっています。



写真3
刈り取り管理活動に参加する市民団体のみなさん

普及啓発活動では、平成25年度から草原の魅力発信の担い手となる生物多様性ガイドの養成講座（5回セット）を兵庫県神戸県民センターと共催しています。私は、講師として、東お多福山草原の魅力伝えるコンテンツ（パンフレット（写真3）・テキスト）の提供やガイド手法を伝授する役割を担っています。3期実施し、修了生による草原案内活動も少しずつはじまっています（写真4）。



写真3
東お多福山草原の魅力伝えるコンテンツ。（左）は草原保全で実現したい目標像を、（右）はかつての姿を納めた古写真を年代年表形式で取りまとめたもの



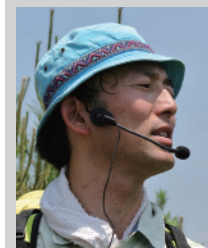
写真4
東お多福山草原生物多様性ガイド養成講座の修了生によるガイド活動の様子

また平成25年度は東お多福山草原のかつての姿を納めた古写真を収集し、草原植生や利用形態の経年変化の様子を明らかにする研究を行い、草原の変遷年表の作成や撮影地点の解明、同一地点で撮影された異年代の古写真の比較分析を行いました。その成果は平成26年度末に古写真パンフレットとして発行した（写真3）ほか、平成27年度には古写真展を阪神間の各地で開催し（写真5）、ススキの穂が一面に広がっていた頃の様子を多くの方に伝えて保全の賛同者の輪を広げる取り組みを行いました。

平成27年秋には、増えつつあるススキの穂を刈り取り、一部を芦屋市内の文化財の屋根の修復に利用する試みをはじめています。



写真5
東お多福山草原の魅力を古写真展を通して伝え、草原の保全の賛同者の輪を広げる取り組み。



東お多福山草原保全・再生プロジェクトの推進

代表者：橋本佳延

協力団体：東お多福山草原保全・再生研究会、兵庫県神戸県民センター、環境省神戸自然保護管事務所、神戸市森林整備事務所

財源：平成23年～25年度科学研究費補助金若手研究B（課題番号：23701026）